

見る 思う

明石薪能の会会長 谷 吉将さん



城跡借景の能公演、絶やさず

先月1日、3年ぶりに明石薪能を催すことができました。全国で初めて造られた移動式能舞台を兵庫県立明石公園の芝生広場に組み立て、明石城跡の櫓や石垣を借景に能楽を上演する秋の風物詩です。新型コロナウイルス拡大のため中止が続いていました。

演目は「小鍛冶」。天皇の命を受けた刀工が稲荷明神と刀を造る物語で、展開がテンポ良く、語も華やかでした。お天気にも恵まれて約千人にお越しいただき、明石薪能が定着してきたことを実感しました。

明石薪能は1989年に市制70周年を記念し、地元企業や団体、県、市が、史跡が多く残る明石で後世に伝統芸能を伝えようとして始めました。私は、伯父が明石薪能の会初代会長を務めた縁で、第16回の2013年から会長職を担っております。

私自身、それまで能楽になじみはありませんでした。伯父や父親世代が、私の世代はそれありません。ですので、最初は公演を見に行くことから始めました。私は開演の饗舞舞台改めで舞台上がり、「明石薪能、お能始めませい！」と号令を發する「能奉行」を務めます。観世流シテ方の笠田昭雄さんに、上田能楽堂(神戸市長田区)で歩き方などの所作も教わりました。

能楽は古典なので、楽しむには見る側にも知識が必要です。筋書きを知らずに見ると理解しづらい、何も残らずに終わってしまうかもしれない。

い。そのため、明石薪能では事前に解説講座を開いています。笠田さんにご協力いただき、能がいつどのようになされたのか、そして上演する演目などについて学びます。今年も3回催され、約100人が参加されました。人気は年々高まり、受け入れ人数を増やしているところです。

明石城築城400年だった19年には春秋2回催し、能楽公演のほか、歌手八代亜紀さんやトランペット奏者日野皓正さん、タレントの浜村純さん、明石のビッグバンドAを招いてコンサートも企画しました。日野さんの公演は雨で中止になったのですが、明石の中高生とセッションしたりハーサル風景をケーブルテレビに撮影してもらいました。

能楽は室町時代に観阿弥、世阿弥によって大成された日本の伝統芸能です。継承には毎年続けることが重要だと思います。そうでないと忘れられ、ファン層が広がらないからです。行政の予算とともに、企業や団体、個人からの協賛金を拡大しながら続けてきました。私の東京や大阪の仲間も協力してくれ、明石と一緒に飲める機会にもなっています。

薪能は全国各地にあります。明石では壮大な城跡を背景に、しかも07年からは現在の層根付きの能舞台上演されています。それらは明石ならではの魅力です。いにしえの幽玄の世界に浸ることもできる。これからは薪能のともじびを絶やさないよう、知恵を絞っていきたくと思っています。

たに・よし将 さん 1991年神戸市西区生まれ。2012年5月から明石土建代表取締役社長。ドローンを使って明石市や兵庫県の風景を空撮しており、写真集「万里一空」を出版した。